



N-BLOOD
NISMO Communication Magazine

NISMO Communication Magazine **N-BLOOD** 2025 / October No.108 Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd



SAMPLE



N-BLOOD

NISMO Communication Magazine
2025 / October
No. **108**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd

受け継がれる「23」の魂

第5戦鈴鹿で、ついに復活の狼煙が上がった
千代と高星の挑戦が、赤き伝統を未来へと継いでいく
僚友3号車も3位表彰台を獲得し、その強さを改めて示した
常勝であれ。最強であれ——
NISMOの23号車が背負う、並々ならぬ重圧を力に換えて
勇躍飛翔の時は近い



- 4 **CEO INTERVIEW**
NMC 新CEOインタビュー 真田裕
- 6 **A MESSAGE FROM THE WORLD CHAMPION**
オリバー・ローランド チャンピオン獲得
- 8 **FIA Formula E World Championship Season 11**
日産フォーミュラE初の王座獲得
- 10 **NISSAN × Formula E 2018-2025**
日産フォーミュラE 参戦の歩み
- 12 **SPECIAL INTERVIEW**
GT500 勝利の舞台裏
- 14 **2025 SUPER GT SERIES - GT500 CLASS**
23号車 待望の今季初勝利
- 16 **2025 SUPER GT SERIES - GT300 CLASS**
追い上げと粘りを見せた日産勢
- 18 **2025 SUPER TAIKYU SERIES**
ST-Z、ST-3クラスで日産勢が活躍
- 20 **2025 GT WORLD CHALLENGE ASIA**
最終戦を残しランキング2位に浮上
- 22 **MOTORSPORT**
Paddock TOPICS
- 24 **SPECIAL TALK SESSION**
Club NISMO 30周年記念企画
『ともに戦う』ファンクラブの原点
- 30 **NISMO LEGEND CARS**
日産ブルーバード・スーパーシルエット (Y910)
- 32 **NISMO STAFF**
NISMOお仕事図鑑
車両の様々なデータをチェックし
安全と適正な走行を司る管制官
[第4回] 稲垣優菜
- 34 **NISMO DRIVING ACADEMY**
ドライビングテクニックを 楽しく向上させてみませんか？
- 36 **NISMO PRODUCT**
エクストレイルNISMO発表
NISMOパーツ最新情報
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
新しい季節を「NISSAN/NISMO」とともに
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント

幅広い経歴を活かして
お客様の期待に応えたい

N-BLOOD 編集部（以下NB）：真田さんは今年6月25日からNMCのCEOに就任しました。それまで在籍していた日産自動車では、主にどのようなお仕事をしていたのでしょうか。

真田裕 CEO（以下真田）：日産には34年間勤めてきました。最初は生産部門、それから商品企画部門、その後はマーチNISMOやノートNISMO、GT-Rを含めたプロジェクトの責任者を務め、ASEAN地域等の販売の現地責任者を経て、経営戦略部門も担当しました。

NB：生産管理から商品開発へはどのように？

真田：当時の上司から「スポーツ担当をやってみないか」と言われ、2012年からNISSAN GT-Rのチームに入りました。それが、今につながる導火線の始まりだったのかもしれませんが。

当時、GT-Rは収益的に非常に厳しく、存続が危ぶまれる場面もありました。日産の経営会議でGT-Rの今後を提案するのが、私の最初の仕事だったのです。当時の社長や役員たちの前で「GT-Rは日産ブランドの重要な柱です」と強調しました。私の手柄だとは言いませんが（笑）、もしもそれがなければ、今年までGT-Rというクルマが存続できたかどうかは分かりません。いい経験をさせてもらったと思います。

その後、GT-R NISMOについて、当時日産テクニカルセンターの狭い会議室で延々と議論していたことを、今回のインタビューの準備をしながら思い出していました。日産車の頂点であるGT-RにNISMOグレードを企画するにあたって、市販スポーツカーの頂点に立ちたいと考え、徹底的にこだわりました。

NB：NISMOブランドのイメージについて、詳しくお聞かせいただけますか？

真田：NISMOは、日産自動車のブランドを支える大きな柱と言えます。日産グループの未来に

ととても貴重な柱です。AUTECHブランドも重要な柱ですが、NISMOの場合は海外での期待値も非常に高いブランドだと感じます。これまでフランスやASEAN地域への赴任経験から、アメリカ、ヨーロッパ、タイ、マレーシアといった国々で、NISMOブランドに対するお客様の期待を肌で感じてきました。

NB：NISMOブランドは様々な商品を展開していますが、どうぞご覧になっていますか？

真田：特にNISMOロードカーに関しては、私自身も日産時代にマーチNISMOやノートNISMOなどを担当していました。最近ではノートオーラNISMOがかなりお客様に受け入れられて、街中でもよく見かけるようになりました。お客様からは「格好いい」というお声をよく聞きます。

実際に乗ってみると、乗り味も標準車とはまっ

たく違います。本気のGT-R NISMOとあわせて、走りスタイルがほどよいバランスのNISMOロードカーもお客様に受け入れていただいていると感じています。また、先日お知らせしたL型エンジンのDOHC変換キットなども、我々の想像を超える反響がありました。これは、先達が作ってくれたクルマが素晴らしいということに加え、それを愛してくださるお客様と、その気持ちに寄り添おうとする我々の思いがマッチした結果だと思います。

NB：就任してまだ数カ月というところですが、会社の印象はいかがですか？

真田：まだ3～4カ月ですが、毎日楽しくて仕方ありません。先日のSUPER GT鈴鹿戦のように成果も出てきているのでワクワクしています。社員はお客様の期待に応えたいという気持ちが

強いと思います。NISMOのようなブランドは、様々なことにチャレンジしていくべきで、たとえばL型エンジンのDOHC変換キットや鈴鹿でのレース結果にお客様が喜んでいただけることが、社員のモチベーションを高めてくれる原動力だと感じます。

妥協のないこだわり
“NISMOらしさ”を伝えたい

NB：その中で、真田CEOが実現したいこと、目標とすることは何でしょうか？

真田：日本のお客様とは、SUPER GTやフォーミュラE、スーパー耐久といったモータースポーツ活動や、ラインナップが強化されたNISMOロードカーなど、様々な接点があります。エクストレイルNISMOも登場しましたし、色々と野心的な試みを企画していますので、日本のお客様にはぜひ期待していただきたいと思います。一方、海外への展開もいっそう推進したいと考えています。東南アジアやヨーロッパ、そしてアメリカなど、海外のNISMOファンも本当にたくさんいらっしゃるので、我々のユニークなブランド活動を伝えたいと思います。

また、フォーミュラEでの活躍で得たものを、将来的にNISMOロードカーにも落とし込みたいですね。NISMOらしい野心的なモデルの企画を、日産フォーミュラEチームや開発チームと考えているところです。特にヨーロッパではフォーミュラEの注目度が高いですし、そのエッセン

真田：日産で色々経験させてもらったものをすべて活用して、NISMOというブランドをさらに魅力的なものにしていくことが私の使命です。

先日、SUPER GTの鈴鹿で勝った際には、日産のイヴァン・エスピノーサCEOからおめでととメールをもらいました。彼はいつも「日産は日本の会社であり、日産/NISMOは日本で成功を収めることが非常に大切だ」と言ってくれています。そういう期待にも応えたいと思っています。

日産ひと筋34年
元愛車はスカイラインGT-R

NB：話は少し戻りますが、日産に34年間勤務したということは、大学を卒業してそのまま日産に就職したのでしょうか。

真田：そのとおりです。学生時代は自動車の研究をしているシンクタンクでアルバイトをしていました。大学の仲間は銀行や商社に就職する時代でしたが、私は自動車会社の面白さに惹かれました。

NB：そういうアルバイトをするくらいですから、クルマは好きだったということですね。

真田：はい。F1ではアイルトン・セナやアラン・プロストの全盛期で、1989年や90年の日本グランプリも観戦に行っていました。実は最初に買ったクルマはMTのシビックでした（笑）。色々なところに走りに行っていました。

NB：では就職で日産を選んだ決め手とは？

真田：お客様に受け入れられる面白い商品をどれだけ作っているか、というのが私の判断基準でし

支えてくださる想い、その恩に報いたいと強く感じます

スを受け継ぐモデルは、やはり期待されているところだと思います。

NB：真田CEOが考える「NISMOらしさ」とは？

真田：それは“ものづくりに対するこだわり”です。NISMOロードカーやパフォーマンスパーツの開発メンバーと話をしていると、モータースポーツの現場と密接に繋がっていることを感じますし、デザインの格好良さだけでなく“走り”の部分へのこだわりを強く感じます。それはNISMOとして大事にしていかなければならないものですし、お客様にも感じ取っていただきたい部分です。

NB：仕事の方向性は大きく変わりますね。

走行会などの参加経験もあるという真田CEO。様々な業務で得た経験や人脈を活かして日産/NISMOの盛り上げを誓う。



たので、迷わず日産でした。スカイラインGT-R（R32）やシルビア、180SXなどがラインナップされていた時代です。入社してまだ3年目くらいの時に、年収より高かったR32を買いました。ちょうど生産が終わるということで、直前に駆け込んだんです。V-spec IIには手が届かなかったので、白の通常グレードでした。

NB：チューニングなどはしていましたか？

真田：太めのマフラーと社外のサスペンションを入れて、ホイールを変えていたくらいです。7年間乗って、その後はフェアレディZ（Z33）のMTも乗りました。

NB：もともとクルマが好きになった原点はどのようなことですか。

真田：子どもの頃、父が“ハコスカ”と“ケンメリ”に続けて乗っていました。GT-Rかどうかは定かではありませんが、とにかくスカイラインだったことは明確に覚えています。祖父もセドリックに乗っていました。おそらくは、それが自動車に興味を持った原点だと思います。実は就職の際に他の自動車会社からも内定をいただいたのですが、日産を選んだのも、日産車に囲まれて育ったことが影響しているのかもしれないですね。

NB：NMCのCEOに就任して、NISMOロードカーにはひととおりましたか。



SUPER GTでは、音の迫力もモータースポーツの醍醐味のひとつだと再認識。さらなるファン獲得のために思案を巡らせる。

真田：先日発表したエクストレイルNISMOも含めて乗っています。普段はノートオーラの4WDに乗っているのですが、ノートオーラNISMOを借りた時には、グイグイと曲がってくれる走りの違いに驚きました。中近東で発売した新型のパトロールNISMOも印象的でしたし、新しいエクストレイルNISMOのe-4ORCEも素晴らしい出来だと思っています。

やはり日産ワークスレーシングを任されている立場なので、NISMOと名のつくクルマを所有したいですね。フェアレディZ NISMOが理想ですが、家族を乗せることや車庫の問題も考えなくてはならないので実現には至っていません（笑）。今は日常的にNISMOロードカーに接することができるので、とてもハッピーですが、いずれは自分のクルマも乗り換えたいですね。

NB：SUPER GTの現場でファンと接する機会も増えたと思いますが、ファンの方々の印象をう

かがえますか？

真田：先日の鈴鹿では物販ブースのお客様や、ファンシートにも行って日産応援団の皆さんとお話ししました。日産にとって厳しい状況が続くなかでも、ずっと応援し、日産/NISMOを愛してくださる皆さんは、本当にファミリーだと感じます。

そして、その想いを受け取ったからには、恩に報いなければいけないと強く感じています。モータースポーツ活動はもちろん、商品においてもです。GT-R NISMOのようなトップエンドの商品も大事ですが、ノートオーラやエクストレイルなど、より幅広いお客さまに手の届きやすいロードカーで、NISMOのパッションを受け取っていただけるよう、引き続き頑張りたいです。

NB：最後に、Club NISMO会員へのメッセージをお願いします。

真田：いつも応援していただき、本当にありがとうございます。皆さまの応援が我々の励みになっています。それを力に、SUPER GTだけでなく、スーパー耐久やフォーミュラEなど、様々なカテゴリーで活躍し、恩返しをしていきたいです。NISMOロードカーも含め、今後も攻めの姿勢でチャレンジをしていきますので、「次は何をしてくれるのだろう」と、楽しみにしていただけたら嬉しいです。